



## 株式会社荏原製作所

2022年12月期 第2四半期決算説明会

2022年8月12日

## イベント概要

---

[企業名]	株式会社荏原製作所
[企業 ID]	6361
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 12 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期
[日程]	2022 年 8 月 12 日
[ページ数]	20
[時間]	17:00 – 18:01 (合計：61 分、登壇：23 分、質疑応答：38 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	6 名 取締役 代表執行役社長 浅見 正男 (以下、浅見) 執行役 風水力機械カンパニープレジデント 兼 冷熱事業担当 永田 修 (以下、永田) 執行役 環境事業カンパニープレジデント/荏原環境プラント株式会社 代表執行役会長 大井 敦夫 (以下、大井) 執行役 精密・電子事業カンパニープレジデント 戸川 哲二 (以下、戸川)

執行役 グループ経営戦略・経理財務統括部長

細田 修吾（以下、細田）

経理企画部長

大崎 晃裕（以下、大崎）

## 登壇

---

**大崎**：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所の 2022 年 12 月期第 2 四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、決算説明会を始めさせていただきます。

本日の 15 時に決算関連の書類を東証のプラットフォーム、並びに当社ホームページに開示しております。そちらもご覧いただきながらご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

私どもの出席者をご紹介します。

代表執行役社長、浅見正男でございます。

**浅見**：浅見です。よろしくお願い致します。

**大崎**：風水力機械カンパニープレジデント、永田修でございます。

**永田**：永田です。よろしくお願い致します。

**大崎**：環境事業カンパニープレジデント、大井敦夫でございます。

**大井**：大井です。よろしくお願い致します。

**大崎**：精密・電子事業カンパニープレジデント、戸川哲二でございます。

**戸川**：戸川です。よろしくお願い致します。

**大崎**：グループ経営戦略 経理財務統括部、細田修吾、IR 担当執行役でございます。

**細田**：細田でございます。よろしくお願い致します。

**大崎**：司会は、経営企画部、大崎が務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

# 目次



<b>当決算におけるポイント</b>	P3	<b>4.次期中期経営計画に向けて</b>	
<b>1. FY22 1-2Q 連結決算サマリ</b>		・ 事業セグメントの変更	P13
・ 連結業績	P4	<b>5. 補足資料</b>	
・ セグメント別	P5	・ 受注高	P16
・ 地域別売上収益	P6	・ 売上収益	P17
<b>2. FY22 1-2Q セグメント別業績</b>		・ 営業利益	P18
・ 風水力	P7	・ 受注残高	P19
・ 環境プラント	P8	・ 地域別売上収益	P20
・ 精密・電子	P9	・ 貸借対照表	P21
<b>3. FY22 業績予想</b>		・ キャッシュ・フロー	P22
・ 連結業績	P10	・ 資本的支出、減価償却費、 研究開発費	P23
・ セグメント別	P11		
・ 事業環境の変化への対応	P12		

#### ■ 略語の説明

- ・ FY：会計年度（例 「FY22」は2022年12月期会計年度）
- ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している（FY21 1QよりIFRS適用）
- FY21 1-2Q及び1-3Qは、FY21において実施した企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した遡及修正後の数値で算出している

本日のスケジュールでございますが、決算概要を経理財務担当の細田より説明させていただき、続けて、今期の見通しを社長の浅見より説明させていただきます。

その後に、皆様からのご質問をお受けいたします。終了時刻は18時30分を予定しております。また、本日の会議の内容は、Zoomのオンデマンドにてお聞きいただけます。詳細は会議終了後にメールにてご連絡させていただきます。

それでは、細田より、説明に入らせていただきます。

## 当決算におけるポイント



### FY22 1-2Q 業績

		前年同期比*	
■ 受注高	3,994 億円	+15.8%	↗
■ 売上収益	3,124 億円	+14.0%	↗
■ 営業利益	271 億円	+10.1%	↗

### FY22 業績予想

		前期比*	
■ 受注高	7,505 億円	-2.7%	→
■ 売上収益	6,840 億円	+13.4%	↗
■ 営業利益	675 億円	+10.0%	↗

\*↗は+5%以上、↘は-5%以下の変化を、→は変化が±5%未満であることを表す

### トピックス

#### FY22 1-2Q 業績

- 精密・電子事業の牽引により、1-2Qの全社業績は受注高、売上収益、営業利益で過去最高を更新
- 中国でのロックダウンや原材料価格の高騰などによるマイナス影響を受けたが、円安進行により増収増益

#### FY22 業績予想

- 風水力事業と精密・電子事業の通期業績予想を見直し、受注高を580億円、売上収益を240億円、営業利益を15億円、それぞれ上方修正
- 引き続き原材料価格の高騰や部材調達難のリスクは残るものの、各種施策を強化し業績達成を見込む

#### 事業セグメントの変更

- FY23 1Qより事業セグメントを従来の製品軸（3事業）から対面市場軸（5事業）へ変更

細田：IR 経理財務担当執行役の細田でございます。

はじめに、当決算のポイントについてご説明をさせていただきます。

2022年12月期第2四半期累計期間の連結業績は、精密・電子事業が牽引し、全社の受注、売上、営業利益はいずれも前年同期を上回りました。そして、中間期としては過去最高を更新しております。

事業環境としては、中国でのコロナに起因するロックダウンや原材料価格の高騰などによるマイナス影響は受けましたが、各種対応施策を実施してきたことに加え、為替の円安進行などのプラス要因もあり、結果的には前年同期比、増収増益となっております。

通期の業績予想につきましては、風水力事業および精密・電子事業において、上期業績の進捗や事業環境の見直しを行い、それを踏まえ、全社として受注を580億円、売上を240億円、営業利益を15億円、それぞれ上方修正しました。

原材料価格の高騰や部材調達難のリスクは今後も継続すると見ておりますが、各種対応施策を強化しまして、今回修正した業績の達成を目指していきたく存じます。

なお、本日、決算発表と同時に、事業セグメントの変更に関するお知らせを開示しました。内容につきましては、来年度 2023 年度の第 1 四半期より、従来の製品軸の事業セグメントから、それぞれの事業が対面する対面市場軸の事業セグメントに変更するというものです。

## 1. FY22 1-2Q 連結決算サマリ 連結業績



(単位：億円)	FY21 1-2Q	FY22 1-2Q	増減	増減率
受注高	3,449	3,994	+544	+15.8%
売上収益	2,741	3,124	+382	+14.0%
営業利益	246	271	+24	+10.1%
営業利益率	9.0%	8.7%	-0.3pts	
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	167	180	+12	+7.6%
為替レート* 対米ドル (円)	107.81	122.89	+15.08	
対ユーロ (円)	129.88	134.22	+4.34	
対人民元 (円)	16.67	18.97	+2.30	

\* 1-2Q期中平均

それでは、まず決算の詳細説明に入ります。

4 ページ目をご覧ください。2022 年 12 月期の第 2 四半期連結業績です。

受注は前年同期から 544 億円増加しまして、3,994 億円、売上は 382 億円、前年同期から増加しまして 3,124 億円、営業利益は前年同期から 24 億円増加しまして 271 億円、営業利益率に関しましては 8.7%となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は 12 億円前年同期から増加して 180 億円となりました。

為替レートにつきましては、記載のとおり、米ドル、ユーロ、中国人民元の主要通貨におきまして、円安が昨年よりも進行したことによりまして、円建ての業績に対しましてはプラスに寄与しております。

為替影響による利益押し上げ効果としては、営業利益は前年と比べてプラス 27 億円程度と試算しており、ともに米ドルのレート変動が大きく寄与しております。

## 1. FY22 1-2Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位：億円)		FY21 1-2Q	FY22 1-2Q	増減	増減率
連結合計	受注高	3,449	3,994	+544	+15.8%
	売上収益	2,741	3,124	+382	+14.0%
	営業利益	246	271	+24	+10.1%
	営業利益率	9.0%	8.7%	-0.3pts	
風水力	受注高	1,654	1,878	+223	+13.5%
	売上収益	1,628	1,792	+163	+10.0%
	営業利益	132	127	-5	-3.8%
	営業利益率	8.1%	7.1%	-1.0pts	
環境プラント	受注高	616	462	-153	-25.0%
	売上収益	313	364	+51	+16.3%
	営業利益	28	9	-18	-66.4%
	営業利益率	9.0%	2.6%	-6.4pts	
精密・電子	受注高	1,168	1,646	+477	+40.8%
	売上収益	790	960	+169	+21.5%
	営業利益	89	139	+50	+56.4%
	営業利益率	11.3%	14.5%	+3.2pts	
その他、調整	受注高	9	7	-1	-20.3%
	売上収益	8	6	-1	-18.1%
	営業利益	-2	-4	-1	-
	営業利益率	-34.2%	-61.9%	-27.7pts	

続いて、5 ページ目をご覧ください。セグメント別の決算サマリです。

風水力事業では、受注、売上が前年同期を上回りました。

ポンプ事業では、中国の一部地域でコロナによるロックダウンの影響を受けましたが、中国以外の海外では需要が堅調に伸びたことや、売値の改善、それから円安などが奏功し、受注、売上が増加しました。

一方、営業利益に関しては、原材料価格の高騰および固定費の増加により、ほぼ前年と比べて横ばいでした。

環境プラント事業につきましては、前年同期の受注水準が非常に高かったこともあり、相対的に今第2四半期の受注は前年同期よりも減少していますが、今期もごみ処理施設の大型案件を上期で複数受注しておりまして、概ね計画通り推移していると理解しています。

環境プラント事業の売上は、前年同期を上回りましたが、一方で、ミックスの悪化、それから一過性の費用計上により、環境プラント事業の営業利益は前年同期を下回りました。



精密・電子事業につきましては、昨年に引き続き堅調な半導体需要に対応してきたことで、受注、売上、営業利益いずれも前年同期を上回りました。

詳細は後ほどセグメント別にご説明します。

## 1. FY22 1-2Q 連結決算サマリ 地域別売上収益



(単位：億円)	FY21 1-2Q		FY22 1-2Q		増減	増減率
	実績	構成比	実績	構成比		
連結合計	2,741	100.0%	3,124	100.0%	+382	+14.0%
日本	1,220	44.5%	1,239	39.7%	+18	+1.5%
海外	1,520	55.5%	1,885	60.3%	+364	+24.0%
中国	490	17.9%	509	16.3%	+19	+3.9%
アジア（中国除く）	445	16.2%	573	18.3%	+128	+28.8%
北米	221	8.1%	242	7.8%	+20	+9.3%
欧州	182	6.6%	273	8.8%	+91	+50.4%
中東	102	3.7%	143	4.6%	+40	+39.3%
その他	78	2.8%	142	4.6%	+64	+82.9%

※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す

これは地域別の売上収益構成で、お客様の所在地別の売上です。

各地域で前年同期比を上回る売上を計上しました。コロナからの需要回復が緩やかな日本や、ロックダウンで事業活動に制約を受けた中国では、伸びてはいるものの、伸び率としては比較的小さく伸び悩みました。

精密・電子事業の海外売上が伸びていることや、風水力事業におきましても、欧州や中東地域などが伸びている状況です。

セグメントごとの地域別売上は、今回お配りしている資料の20ページにも掲載しておりますので、そちらも併せてご参照下さい。

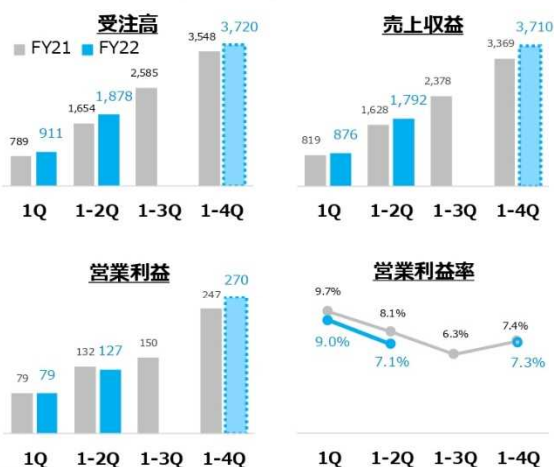
次のページ以降が、セグメント別の業績の詳細の説明です。

## 2. FY22 1-2Q セグメント別業績



### 風水力

#### 業績推移 (単位: 億円)



#### 売上収益S&S比率

	FY21				FY22			
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q
風水力	35.7%	34.3%	32.9%	33.9%	38.5%	35.8%	-	-
ポンプ	31.3%	27.0%	24.1%	24.3%	30.7%	25.9%	-	-
CT	51.3%	52.9%	53.8%	55.4%	61.5%	60.6%	-	-

#### ポイント

- ポンプ**
- 標準ポンプは国内外共に受注が好調、海外で増収 (+)  
国内で原材料価格高騰などの影響を受け減益 (-)
  - カスタムポンプは国内の受注は好調  
中国で受注・売上・営業利益が減少 (-)

#### コンプレッサ・タービン (CT)

- コロナ影響の緩和などによりサービス&サポート (S&S) の受注・売上が増加 (+)
- 売上収益S&S比率の上昇により増益 (+)

#### 冷熱

- 中国市場の需要は堅調で受注・売上・営業利益が増加 (+)

全事業 人件費が増加 (-)

#### 営業利益増減要因分析 (単位: 億円)



7 ページ目をご覧ください。まずは風水力事業です。

受注は、前年同期から 223 億円増加して 1,878 億円、売上は 163 億円前年同期から増加して 1,792 億円となりました。営業利益は、5 億円減で 127 億円でした。

サブセグメントで見えていきますと、まずポンプ事業は前年同期比で売上はほぼ横ばい、利益は減益という結果でした。

ポンプ事業の中の 1 構成要素であります標準ポンプ事業は、国内外ともに受注が好調でした。中国においてはコロナに起因するロックダウンの影響で、工場停止や出荷遅れなどが見られたものの、全般的には海外においては順調に売上を伸ばしました。

一方で、標準ポンプ事業の国内では、部材不足に伴う客先の工事中断や工事の延期により、売上が伸び悩みました。

原材料価格高騰の影響を緩和すべく、標準ポンプ事業では価格改定等の対応を進めてまいりましたが、その影響を全てはカバーしきれず、その結果前年同期比、やや減益となりました。

一方、ポンプ事業の構成要素であるカスタムポンプ事業では、国内公共向けの受注は堅調でしたが、中国での需要減速によって、減収減益となりました。

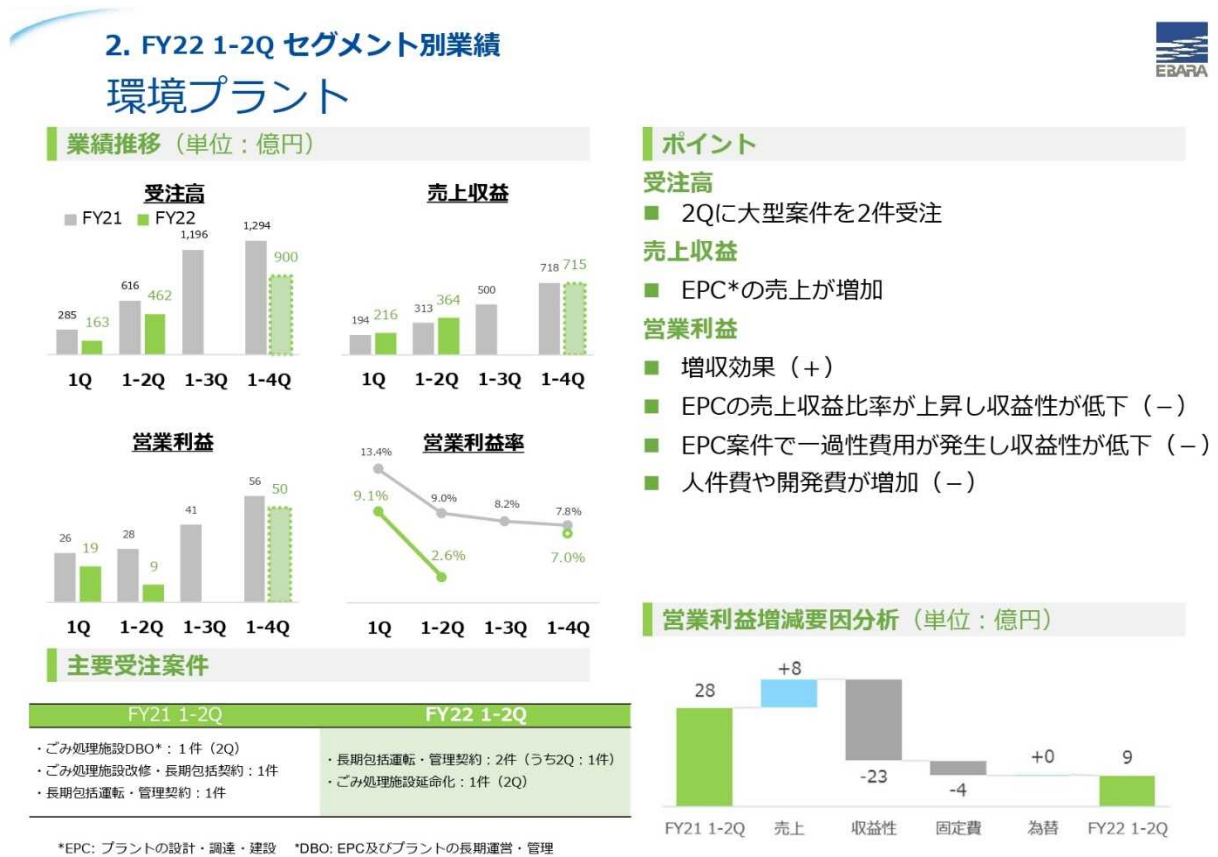
続きまして、コンプレッサ・タービン事業ですが、足元のインフレやウクライナ情勢などによる不透明感を受けて、お客様の側で投資判断を見送る傾向が見られ、その影響もあり、受注に遅れが見られました。

一方で、コロナによる移動制限が昨年来あり、それが徐々に緩和をされてきたことを受けまして、サービス&サポートの需要が増加してきており、その結果として増収増益となりました。

冷熱事業に関しては、中国市場での需要が非常に堅調で、増収増益となりました。

風水力事業全般におきまして、固定費の増加が見られますが、これは前期の好業績を踏まえた業績連動型賞与による増加分、および減価償却費等の増加に起因するものです。

サブセグメント別損益の詳細につきましては、16 ページ以降の補足説明資料のなかにも掲載しておりますので、そちらも併せてご確認下さい。



8 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead Beyond

続きまして、環境プラント事業です。8 ページ目をご覧ください。

受注は前年同期から 153 億円減少して、462 億円となりました。売上は 51 億円増の 364 億円、営業利益は 18 億円減の 9 億円で増収減益となりました。

受注案件は、左下の主要受注案件に記載のとおり、第 2 四半期、4-6 月の間に長期包括契約案件、延命化案件をそれぞれ 1 件ずつ受注しており、上期は合計で 3 件受注し、計画通りの推移となっております。

前年同期比減益の理由は、収益性要因と固定費要因とに区分され、収益性要因としては、まず EPC 案件とオペレーション&メンテナンス案件とのミックス、すなわち EPC 案件売上比率の増加が本決算における収益性低下の一因となりました。

そのほか、進行中 EPC 案件における試運転トラブル対応のための追加コストなど、一過性の費用計上もあり、その結果収益性の低下に繋がっている状況です。

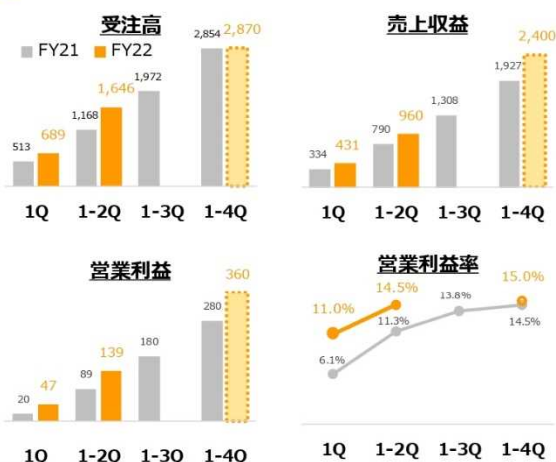
固定費要因としては、前年同期比での人件費固定費の増加があります。

EPC 案件の増加は、一時的には収益性を下げますが、将来のオペレーション&メンテナンス事業の増加につながることから、中長期的な事業価値の向上に資するものと、その意味ではポジティブと考えています。

## 2. FY22 1-2Q セグメント別業績 精密・電子



### 業績推移 (単位: 億円)



### ポイント

- 受注高**
  - 半導体市場の設備投資は高水準で推移
  - コンポーネント、CMP共に堅調
- 売上収益**
  - 部材調達難の影響により出荷遅れがあるものの、堅調な需要により増収
  - コンポーネント、CMP共にS&Sは引き続き堅調
- 営業利益**
  - 増収効果 (+)
  - 自動化工場による生産性向上でコンポーネントの収益性が改善 (+)
  - 人件費が増加 (-)

### 営業利益増減要因分析 (単位: 億円)



### 地域別売上収益

FY22 1-2Q (単位: 億円)	日本	アジア (日本 除く)	北米	欧州	その他	合計
売上収益	213	548	111	82	4	960
増減* (対FY21 1-2Q)	↘	↗	↗	↗	↘	↗

\* ↗は+5%以上、↘は-5%以下の変化を、→は変化が±5%未満であることを表す

次に、9 ページ目をご覧ください。精密・電子事業です。

受注は前年同期から 477 億円増で 1,646 億円、売上は 169 億円増の 960 億円、営業利益は 50 億円増の 139 億円で、受注、売上、営業利益は、いずれも精密・電子事業の上期として過去最高を更新しました。

半導体市場の設備投資は、引き続き高水準で推移しておりまして、お客様の工場稼働率も非常に高いことから、製品およびサービス&サポートともに受注が好調でした。通常より長いリードタイムを想定したお客様による早期発注の動きも継続している状況にあり、その結果、前年同期比 4 割増の受注水準となりました。

売上については、部材調達難の影響などにより出荷遅れが見られるものの、前年同期を上回る水準となりました。

営業利益については、増収効果と、ドライ真空ポンプの自動化工場の本格稼働に伴う収益性改善が人件費などに起因する固定費の増加を上回り、結果として増益となりました。

以上で、第 2 四半期連結業績に関する説明を終わります。

### 3. FY22 業績予想 連結業績



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q						
	FY21 実績 a	FY22 旧計画 22/05/12 b'	FY22 計画 22/08/12 b	前期比		前回計画比	
				増減 b-a	増減率	増減 b-b'	増減率
受注高	7,714	6,925	7,505	-209	-2.7%	+580	+8.4%
売上収益	6,032	6,600	6,840	+807	+13.4%	+240	+3.6%
営業利益	613	660	675	+61	+10.0%	+15	+2.3%
営業利益率	10.2%	10.0%	9.9%	-0.3pts		-0.1pts	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	436	460	465	+28	+6.6%	+5	+1.1%
ROIC	10.7%	10.5%	10.3%	-0.4pts		-0.2pts	
1株当たり年間配当金	163	170	170	+7		-	
中間配当金	50	85	85	+35		-	
期末配当金	113	85	85	-28		-	
為替レート							
対米ドル (円)	109.86	125.00	125.00	+15.14		-	
対ユーロ (円)	129.91	135.00	135.00	+5.09		-	
対人民元 (円)	17.04	19.00	19.00	+1.96		-	

**浅見：**それでは、通期業績予想と本日開示させていただいた「事業セグメントの変更」につきまして、ご説明をさせていただきます。

10 ページ目をご覧ください。

事業環境は、原材料価格の高騰、中国でのロックダウンの影響などから改善に向かっている動きも見られますが、一方で、コロナ変異株の再拡大、ウクライナ情勢など地政学上のリスクに加え、欧米でのインフレなど、依然として不透明な状況が続くと認識しています。

原材料価格の高騰や部材不足による業績への影響が、下期においても続くと予測されるなか、各種施策を継続、強化して、上期の実績、今後の需要動向などに鑑みて、通期業績の予想を上方修正することとしました。

受注につきましては前回公表から 580 億円増加の 7,505 億円、売上は 240 億円増加の 6,840 億円、営業利益は 15 億円増加の 675 億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は 5 億円増の 465 億円としています。

最重要経営指標である営業利益率は 9.9%、ROIC は 10.3%となる見込みです。

1 株当たりの配当金、想定為替レートに変更ありません。

## 5. 補足資料

### キャッシュ・フロー



発表日(年/月/日)	1-2Q			1-4Q				
	FY21	FY22	増減	FY21	FY22 旧計画 22/05/12	FY22 計画 22/08/12	前期比	前回計画比
	a	b	b-a	c	d'	d	d-c	d-d'
営業活動CF	628	284	-343	728	650	400	-328	-250
投資活動CF	-290	-140	+150	-313	-480	-480	-166	-
フリーCF	338	144	-193	414	170	-80	-494	-250
財務活動CF	-39	-165	-125	-294	-240	-134	+160	+106

なお、年間キャッシュ・フローの計画につきましては、一部修正を行っておりますので、詳細につきましては、22 ページ目をご覧ください。

### 3. FY22 業績予想 セグメント別



(単位：億円) 発表日(年/月/日)		1-4Q						
		FY21 a	FY22 旧計画 22/05/12 b'	FY22 計画 22/08/12 b	前年比		前回計画比	
					増減 b-a	増減率	増減 b-b'	増減率
連結合計	受注高	7,714	6,925	7,505	-209	-2.7%	+580	+8.4%
	売上収益	6,032	6,600	6,840	+807	+13.4%	+240	+3.6%
	営業利益	613	660	675	+61	+10.0%	+15	+2.3%
	営業利益率	10.2%	10.0%	9.9%	-0.3pts		-0.1pts	
風水力	受注高	3,548	3,490	3,720	+171	+4.8%	+230	+6.6%
	売上収益	3,369	3,470	3,710	+340	+10.1%	+240	+6.9%
	営業利益	247	255	270	+22	+8.9%	+15	+5.9%
	営業利益率	7.4%	7.3%	7.3%	-0.1pts		-	
環境プラント	受注高	1,294	900	900	-394	-30.5%	-	-
	売上収益	718	715	715	-3	-0.5%	-	-
	営業利益	56	50	50	-6	-11.2%	-	-
	営業利益率	7.8%	7.0%	7.0%	-0.8pts		-	
精密・電子	受注高	2,854	2,520	2,870	+15	+0.6%	+350	+13.9%
	売上収益	1,927	2,400	2,400	+472	+24.5%	-	-
	営業利益	280	360	360	+79	+28.4%	-	-
	営業利益率	14.5%	15.0%	15.0%	+0.5pts		-	
その他,調整	受注高	17	15	15	-2	-15.5%	-	-
	売上収益	16	15	15	-1	-7.2%	-	-
	営業利益	29	-5	-5	-34	-	-	-
	営業利益率	180.1%	-33.3%	-33.3%	-213.4pts		-	

続きまして、業績修正に関しまして、セグメントごとの修正内容を 11 ページでご説明します。

風水力事業では、市場が好調で、売値の改善施策、中国でのロックダウンからのリカバリーなど、各種施策の実施によって、受注は前回よりも 230 億円増加の 3,720 億円、そして売上は 240 億円増加の 3,710 億円、営業利益は 15 億円増加の 270 億円、それぞれ上方修正しました。



## 5. 補足資料

### 売上収益



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	FY21				FY22				
	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-4Q 旧計画 22/05/12	1-4Q 計画 22/08/12	増減
							a	b	b-a
連結合計	1,352	2,741	4,199	6,032	1,528	3,124	6,600	6,840	+240
風水力	819	1,628	2,378	3,369	876	1,792	3,470	3,710	+240
ポンプ	524	962	1,370	1,915	516	974	2,000	2,100	+100
CT	166	405	622	912	224	506	950	1,050	+100
冷熱	86	190	284	407	101	247	410	450	+40
その他	41	71	100	135	34	63	110	110	-
環境プラント	194	313	500	718	216	364	715	715	-
精密・電子	334	790	1,308	1,927	431	960	2,400	2,400	-
コンポーネント	184	375	572	824	219	458	920	1,115	+195
CMP	138	388	691	1,036	195	470	1,430	1,225	-205
その他	11	26	44	66	16	30	50	60	+10
その他	4	8	12	16	3	6	15	15	-

精密・電子事業につきましては、顧客の設備投資意欲は依然として高いことから、受注を350億円上方修正しました。売上は合計で変更はありませんが、サブセグメントごとには変更がありますので、17ページに詳細をご覧ください。

### 3. FY22 業績予想 事業環境の変化への対応



- 事業環境の変化による様々なリスクに適切に対応し、業績への影響を最小化
- 通期営業利益への影響額は今回の業績予想の修正に織り込み済み

リスク	対象事業	対策	実績	見通し	
			1-2Q 営業利益 影響額 (前年同期比)	3-4Q 方向性 (1-2Q比)	通期 営業利益 影響額 (前期比)
原材料価格の高騰	全事業	(販売) ■ 価格改定 ■ 見積への反映	-20億円	横ばい 	-45億円～ -55億円
部材の調達難	ポンプ、 CT、 精密・電子	(調達) ■ 一括購買 ■ グローバル調達強化 ■ 調達部門人員増強 ■ 設計変更			
中国でのロックダウン	ポンプ、 冷熱、 精密・電子	■ 増産によるリカバリー	-17億円	改善 	
為替	全事業	(想定レート据え置き) USD125円、EUR135円、CNY19円	+27億円	-	+55億円

続いて、12 ページをご覧ください。

通期の業績予想に反映したリスク要因は、原材料価格の高騰、部材の調達難、中国でのロックダウン、為替の4項目です。

原材料価格の高騰および部材調達難への対応につきましては通期継続になりますが、価格改定や見積書の有効期限を短くして、原材料価格の高騰分を反映しやすくしています。

また、調達面におきましても、一括購買やグローバル拠点での活用などの対策を行っております。

上期は営業利益でマイナス20億円程度の影響がありました。下期も上期並みの影響額を見ています。

中国でのロックダウンにつきましては、ポンプ事業、そして精密・電子事業の中国子会社での工場の停止、部品納期の長期化などの影響を受けました。

上期は営業利益でマイナス17億円の影響がありましたが、既に行動制限は解除されておりますので、増産によって上期の遅れをリカバリーする予定です。

これらの要因による通期の影響額は、原材料価格の高騰、部材調達難、中国でのロックダウンを合わせまして、年間 45 億円から 55 億円の営業利益の引き下げ要因になると見込んでいます。

一方で、為替変動による影響額の見通しは、現状の想定レートを据え置くと、通期で 55 億円の利益の押し上げ要因となり、トータルでの営業利益の影響は差し引きで軽微とみています。

今回の通期の業績予想には、これらのリスクを織り込んでいます。

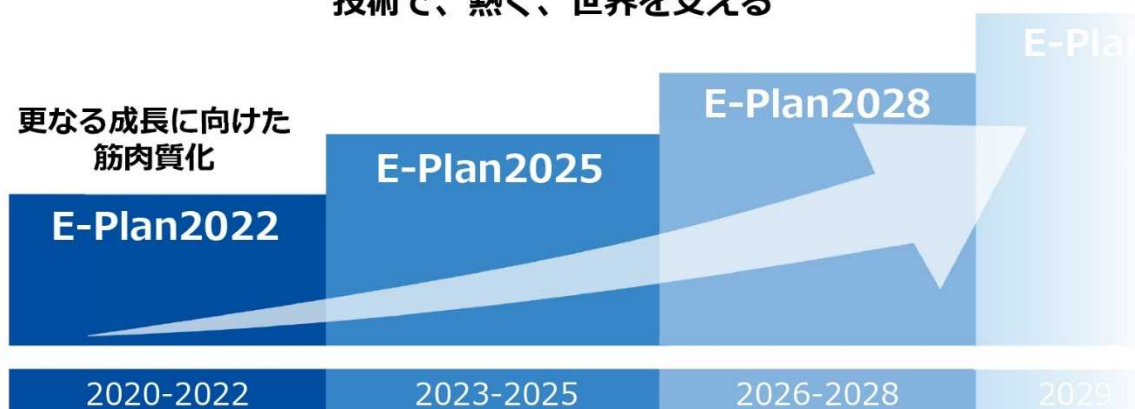
#### 4. 次期中期経営計画に向けて 事業セグメントの変更



ESG経営やSDGsへの寄与を通じて持続的に社会に貢献し、  
社会・環境価値と経済価値を同時に向上させていくことで企業価値を高め、  
グローバルエクセレントカンパニーを目指す

## E-Vision2030

技術で、熱く、世界を支える



最後に、13 ページをご覧ください。

本日 15 時に決算発表と併せて開示した「事業セグメント変更」に関して、その概要についてご説明させていただきます。

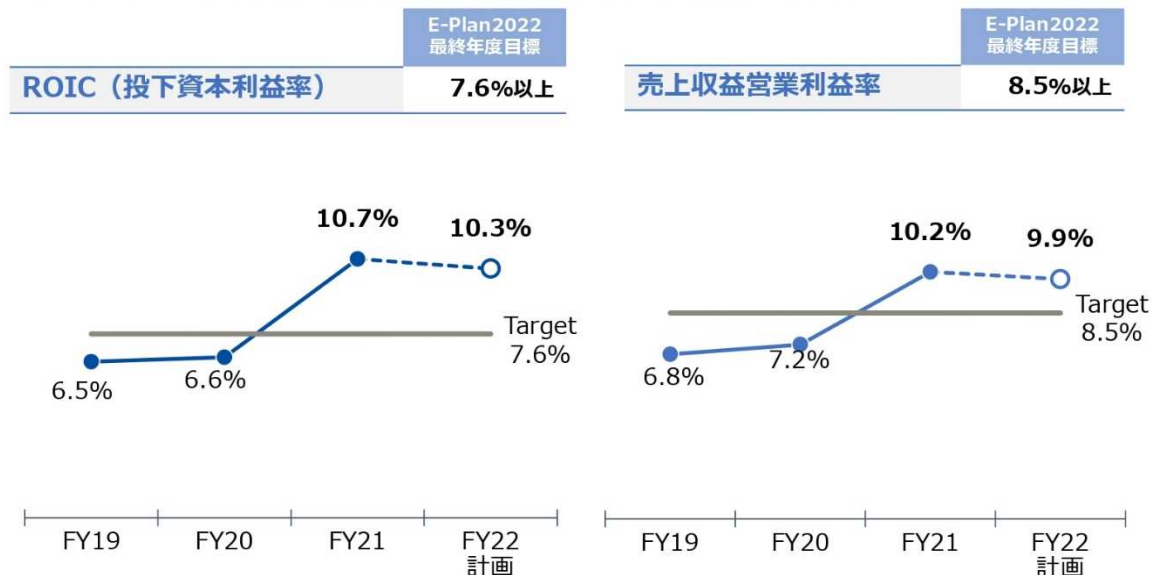
当社は、2020 年 2 月に、2030 年のありたい姿「E-Vision2030」を発表し、「技術で、熱く、世界を支える」を旗印にさらなる成長に向けた筋肉質化と位置付けた「E-Plan2022」を進めてまいりました。

#### 4. 次期中期経営計画に向けて 事業セグメントの変更



##### 中期経営計画「E-Plan2022」の進捗

- 最重要経営指標であるROIC及び売上収益営業利益率は1年前倒しで目標達成
- 中計3年目となるFY22においても中計の目標を上回る計画



昨年、E-Plan2022 で掲げた ROIC、そして営業利益率の目標を 1 年前倒しで達成し、今年も目標を達成できる計画としています。E-Plan2022 は、「更なる成長に向けた筋肉質化」のステージと位置付け、さまざまな施策を行ってきました。

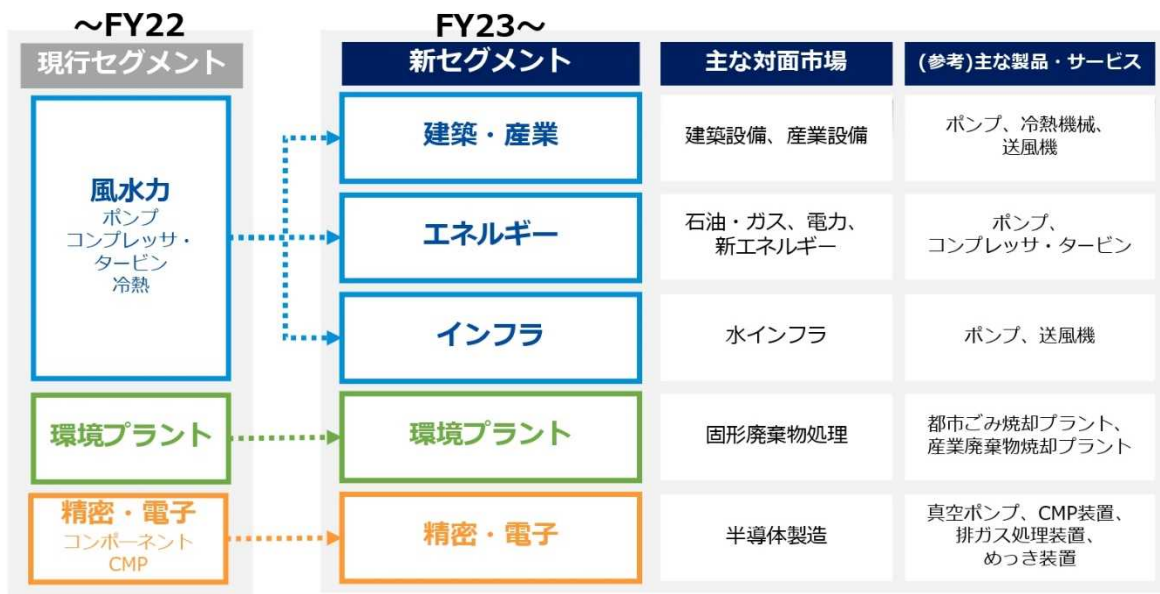
その大きな成果が収益性の改善です。もちろん、まだ道半ばで、継続して改善していきますが、2030 年のありたい姿に向けて、持続的にやりたいことができるベースは強化されてきたと考えています。

## 4. 次期中期経営計画に向けて 事業セグメントの変更



目的：顧客起点で価値創造を実現するため対面市場毎に戦略強化を図る

- 現行の製品軸セグメントから対面市場軸セグメントへ事業セグメントを変更
- 2023年12月期1Q決算より新セグメントでの業績開示予定



15 | Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

Looking ahead, going beyond expectations  
Ahead Beyond

そのベースの上に立ちまして、来年から始まる次期中期経営計画「E-Plan2025」でフォーカスしたいことは、顧客起点での価値創造を更に強化し実現していくことです。そのために必要なことは、従来の製品軸セグメントから、対面市場別セグメントに変わることだと考えています。

具体的には、風水力事業を建築産業、エネルギー、インフラという三つの対面市場セグメントに変更して、市場のニーズにフォーカスして、競争力を強化しようと考えています。

精密・電子事業と環境プラント事業は、セグメントの変更はいたしません。一方で、市場に向き合う意識をさらに強めて、競争力を高める変革を行って、更なる成長を精密・電子事業、環境プラント事業でも目指したいと考えています。

今後、新たな事業セグメントで E-Plan2025 の具体的な策定を進めてまいります。

私からの説明は以上です。